

薬剤師キャリアをどう歩むか

日本病院薬剤師会理事
山口大学医学部附属病院薬剤部長・教授
北原 隆志 Takashi KITAHARA



薬剤師としてのキャリアをどう積んでいくかというのは、とても重要ですが、とても難しいテーマでもあると思います。

2013年に政府が改定した「高齢者雇用安定法」によって、2025年4月からすべての企業で「65歳以上の雇用確保」が義務化されます。そのため多くの病院薬剤師の定年も65歳になると考えられます。浪人や留年をせず大学卒業、かつ国家試験にストレートで合格した場合、薬剤師になるのは最短で24歳となりますので、約40年間薬剤師として働いていくわけです。ヒトの価値観はそれぞれですので、仕事はこなす程度でプライベートを充実させたいという考えもあるかもしれません。ただ、漫然と業務をこなしていただくだけでは、医療人として正しい姿といえるでしょうか。長崎大学医学部の礎となる長崎奉行所西役所において教鞭をとったオランダ海軍軍医ポンペ・ファン・メールデルフォールトは、「医師は自らの天職をよく承知していなければならぬ。ひとたびこの職務を選んだ以上、もはや医師は自分自身のものではなく、病める人のものである。もしそれを好まぬなら、他の職業を選ぶがよい。」という言葉を残しています。これは医師に対しての言葉ですが、同じく医療人である私たち薬剤師にとっても心に留めておきたい言葉です。40年間もの薬剤師人生を生きがいをもって歩むためには、やはり医療人として目標をもって進んでいったほうが良いと思います。

薬剤師のキャリアを考えてみると、専門性を極める「スペシャリスト」、幅広い知識やスキルをもつ「ジェネラリスト」、管理や指導・教育に携わる「マネジャー」といった選択肢があるのではないかと思います。壮大な目標でなくてもいいですし、目標は途中で変わってもいいので、まずは目標を考えてみるのが重要です。そのために施設によっては部署でキャリアパスを提示してあるところもあるかと思います。キャリアパスはキャリアアップのための道筋です。キャリアアップとは、現状の職位から上位職位に上がること、または、専門的知識やスキルを向上させ、経験を積み、職務や職責を変化させることを指すとされています。提示されたキャリアパスを参考に進むことは良いキャリアアップの方法の1つです。また自分でキャリアプランを立てることも方法としてはあります。自分でキャリアアップのための方策を考える必要があるので少しハードルは高いですが、より自身にフィットしたものになると思います。設計したキャリアプランを実現するためには、研修会や講習会等で研鑽を積んだり、情報を収集したりすることが重要です。医学・薬学は進歩し続けていますので、薬剤師は常に知識とスキルをアップデートしていく必要があります。これらの積み重ねにより、行動変容が起き、さらなるキャリアアップにつながっていくと考えます。

医療人としての責務を果たすこと、生きがいのある人生を歩むことを両立できることが、現在の薬剤師が目指す道かと思います。そのために自身のキャリアアップのデザインを考えてみましょう。